

## 文化活動発表・鑑賞の場に関する方針の策定

### 1. 方針策定に向けた調査

(あり方検討報告-1)

文化活動に必要な補修や備品の導入を行うなど、市内の既存施設を有効に活用する方法が考えられる。

(調査結果)

現文化会館ステージを利用している50の文化団体等に聴き取り調査を実施。その結果、29団体から閉館後は「めいりん」講堂の利用を検討していると回答がありました。また、活動を検討している施設に関して、照明や音響が十分でなく心配という声がある一方で、23団体からは「施設にある機材で活動ができる」と回答がありました。

(あり方検討報告-2)

現文化会館について、技術の進歩などにより事業費を抑えた工法による耐震化や長寿命化の可能性を探ることも必要であると考えられる。

(調査結果)

有識者へ聴き取り調査を行い、技術進歩による経費抑制以上に材料費や人件費が高騰しており、全体的な事業費は高額になると回答がありました。

### 2. 文化活動発表・鑑賞の場に関する方針

1の調査結果などを踏まえ慎重に判断し、次のとおり方針を定めました。

- ①文化会館の新築・増築並びに現文化会館の耐震化・長寿命化は行わず、現文化会館は、令和8年5月31日をもって閉館します。
- ②文化活動に必要な補修や備品の導入を行い、市内既存施設を有効活用します。

### 3. 今後の対応

・各団体に閉館後活動を検討している施設を利用いただき、施設の使用感を伺いながら、必要な補修や備品の導入を行います。

・閉館後の跡地については、現時点で具体的な方針は決まっていません。跡地については、今後、検討を進めていきます。